

## (新) 宮城県建設工事等総合評価支援システムについて

### 【概要】

宮城県では平成 18 年度から建設工事において総合評価落札方式を実施しており、平成 20 年度は一般競争入札 1,050 件中 704 件、平成 21 年度は 1,034 件中 763 件の工事で実施されています。また、平成 21 年度からは建設関連業務でも試行され 18 件の業務で実施されています。

現在、総合評価落札方式の運用は、平成 18 年度に職員が作成した Microsoft Excel を利用した「総合評価支援システム」を用いて実施しています。しかし、この評価支援システムは、Microsoft Excel の関数やマクロ（プログラム）を複雑に用いて作成されたシステムのため、利用者の環境（OS・Excel のバージョン）の多様化に全て対応することが困難になっており、最新の OS（Windows7）と Excel 2007 のファイル形式では不具合が発生することが確認されています。また、マクロ（プログラム）を利用しているため、ウィルス感染の危険性など、セキュリティー上も脆弱となっています。

このため、今回、新しく WEB 版の（新）宮城県建設工事等総合評価支援システム（以下「（新）総合評価支援システム」という。）を構築し、総合評価落札方式の運用を支援していくこととしました。

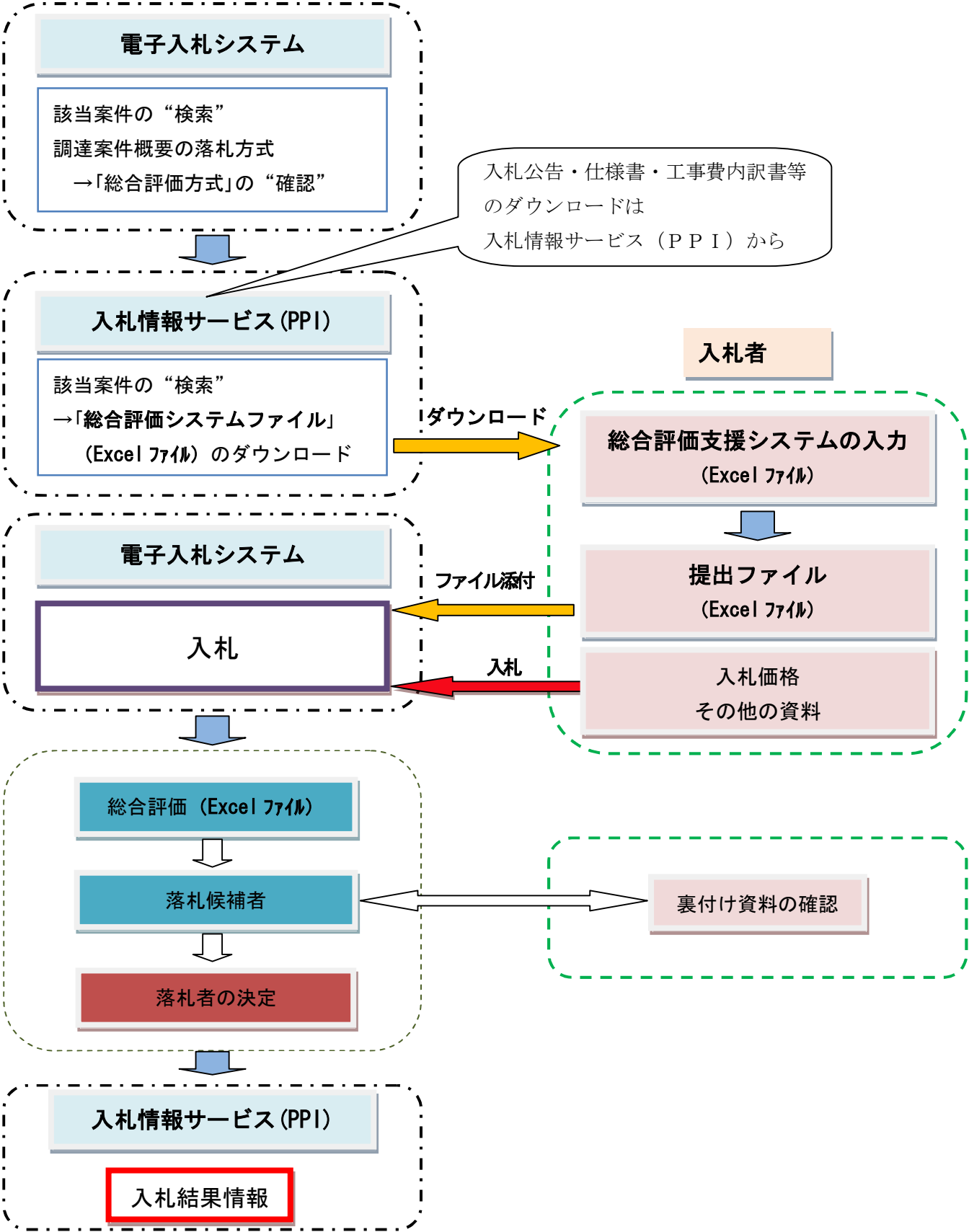
### 【（新）総合評価支援システムの特徴】

（新）システムは、発注者、入札者ともにインターネットエクスペローラを利用し、（新）総合評価支援システムに電子入札の ID・パスワードでログインすることで、これまで Excel のファイルを利用して実施していた総合評価を WEB 上で行えるようにしています。

そのため、これまでのように入札情報サービス（PPI）からの総合評価システムファイル（Excel）のダウンロードや、電子入札時に提出ファイル（Excel）の添付は必要ありません。（新）システムでは、提出ファイルの代わりに総合評価技術資料証明ファイル（PDF）を添付することとしています。

一方、WEB 上で入力するため、データの保存方法も、これまでのように Excel ファイルによる保存から、サーバーによる一括保存に変わることから、Excel ファイルとして各自保存する形態が取れなくなります。このため WEB 上で入力したものを PDF ファイルとして各自排出して保存する必要があります。

### 現行の総合評価支援システムの運用



(新) 総合評価支援システムの運用

